

理研会報

行
印教研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

私の授業実践

本城小学校 佐藤 健一

理科の中でどのような活動が好きかと児童にたずねると、実験や観察が多く、予想や考察という児童は少くないだろうか。

使ったことのない器具を扱えることや事象の変化をしっかりと見つめるという活動は大変興味があり、楽しいことであるにちがいない。

だが、実際の活動の前に、その結果と生活体験から予想したり、出てきたものから分かったことや考えられることを導き出したりすることで物事を筋道立てて考へることがよく思う。

実験後には他のグループのデータと比較し考へることが大切である。しかし、実験に時間がかかりすぎたり、失敗してしまったりして話し合いの調整をしているうちに考へる時間がとれず、結果だけを伝えて授業を終えてしまうことが多かった。

話し合いの時間を作りたいといふ目的を少しでも達成させるために、本校に開校より導入されてい

る二十台のパソコンを利用した。

授業は、最初に体育館から始め

行った。この時には、脈拍数だけ

でなく、ほてった顔や息の上がり

た呼吸についても記録させた。さ

らに十分なつうちに元に戻ってい

く様子を子どもたち自身の言葉で表現させた。

体育館からパソコン室に移動し

て入力を始めた。事前に練習して

いても迷う児童がおり、その都度

支援していった。

元では脈拍の数値を時間ごとにグ

ラフ化することで一般的な規則を

べてデータの処理に時間がとられ

ないため、ほぼ一斉に結果が出せ

る。

その時にパソコンを使って一人

人の体と運動という四年生の单

位方をした。

授業の準備の段階で、実験活動

とパソコン入力をどのように効率

的に行うかという点が問題になっ

た。

一人のデータを大切にし画面上に

表示するという小黒板的な活用の仕方をした。

酒々井小学校 小島 実 適しているか、店主と相談した。

それによると、多くの発見の場となつた。

○おわりに 体のつくりとはたらき

ー身近な魚による解剖よりー

・ワカシ・出生魚のブリの幼魚で

食欲も旺盛。胃腸も大き

く時も、魚の映像が鮮明に頭の中

となると考へたからである。また

身近な魚（食卓に出されるサバ、

ワカシ、イワシなど）を使うこと

は、生きた魚より、多くの子ども

にとって抵抗感が少なくなるので

はと考え、取り入れていくことに

した。

○解剖でのこどもたちの様子

解剖の手順を示したワークシートをもとにグループごとに進めさせていった。

最初は抵抗感がある子どもも、

ところ、大きく分けて、次に挙げ

る五つのことに興味が分かれた。

工夫をこれからもしていきたい。

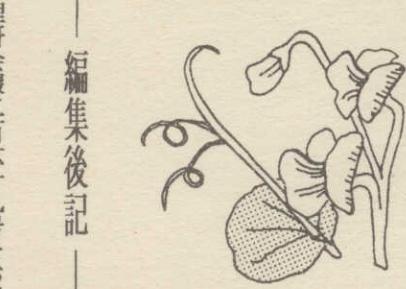
子どもたちの好奇心や興味をい

い、便利な道具として使っていく

た。A 呼吸に関すること

B 消化、食べ物に関するこ

C 血液の循環に関するこ



—— 堀畠佳木俊記記 ——

理研会報二百六十九号をお届け

いたします。今回は、「私の授業実践」ということで二名の先生方の記事を載せました。

「胃の奥にあったイワシは、ヌル

ヌルしていく、とけてるぞ。」

新しい発見もあった。

かけしたことをお詫び致します。

立させ、解剖を行つ前にあらかじめ教師がグループごとにどんな

指導をしていけば良いかを考えた。

「エラはギザギザしていて、血の色をしているよ。」

○魚屋への聞き込み調査

部長にお尋ねください。

*投稿等につきましては、各研究

指導をしていくべきかを考え

る。

サバを解剖していたグループであ

る。

色をしているよ。」

印教研 理科研究部事務局